

# 歯科と医科の連携を進め 歯と口の健康から日本の健康づくりへ

世界一の超高齢社会に突入した日本。健康福祉政策でも諸課題を抱え、健康日本21（第二次）、健康増進法などで方向付けているが、二〇一七骨太方針にも盛り込まれ、歯科保健を全身の健康に寄与すると位置付けている。8020（八十歳で二〇本以上の歯を保とう）運動発祥の地と言われ、積極的活動を続ける愛知県歯科医師会の内堀典保会長に課題や抱負を聞いた。

——会長就任一年です。

**内堀** 就任前の六年間、副会長を務めました。会長をやっていると、いろいろな仕事が入り込んで、当初は忙殺された感じでした。やはり新任は力が入ってやりたいことを一気にやり出していますね。新執行部は昨年七月発足で、まだ一〇カ月ですが感覚的にはすでに二年経った感じです。張り切り過ぎて新役員は悲鳴を上げています。もしかかもしれません（笑）。

——具体的には？

**内堀** 最初は会員目線で何を

やっているか分かるように可視化することに着手しました。部内広報ですね。その中で一番力を入れたのは行政への意見出しです。医療、健康など各種審議会に出席しますが、大体一週間前に資料が来て、従前では二時間会議でひとこと質問して終わりという形でした。私が就任してからは資料が来たら関係部署ごとに質問項目をまとめる作業を指示します。それを行政の担当に提出し、会議に臨みます。そうすると行政からそれに対する答えが返ってくる。各部署

の役員は大変ですが一生懸命まもっていただいています。すべて受け入れられる訳ではありませんが、きちんとした回答が得られます。我々も納得でき、医療計画などに反映されるようになってきたように感じます。

——特に力を入れているのは？

**内堀** 労働衛生法上の歯科健診です。特定健診に歯科が入って、義務付けられていませんので支払う側の組合健保・協会健保の関心は低い状況です。しかし大手の組合では歯科健診はトータルで健康に影響し、医療費負担が下がる、という認識を持ちつつあります。例えば年四回事業所歯科健診を実施したりして、事業所歯科健診の回数を増やす方向に向かっ

ています。

また、私自身県下四四地区の歯科医師会への会合に出席する機会があります。その場で来賓として出席された首長の方とお話をするときに、歯科健診の有用性について働き掛けをしています。名古屋は四十歳からの節目歯科健診を一〇歳刻みから五歳刻みにしました。蒲郡市は節目歯科健診を七十五歳までを八十歳までに延ばし、春日井市は誤嚥予防プログラムを実施するなど、各地区で動きが出ています。

——超高齢社会です。

**内堀** 問題視されているのは平均寿命と健康寿命の差です。その差は男性で約九歳、女性で約十二歳。寿命が伸びたとしても全身機